

D 117 高齢者の色彩感情の実態(第8報) - 数量化Ⅲ類 -

東京家政学院短大 井澤尚子 北海道教育大 ○斎藤祥子 北海道女短大 石垣和子 仙台白百合短大  
鈴木良子 宮城学院女大 塩谷節子 東京家政学院短大 今井弥生

目的 日本はすでに、世界でも有数の長寿国として、さまざまな社会問題をかかえている。人間として、『老い』は避けては通れない問題の一つである。そこで、色彩・意匠学部会では、過去2年に引き続き、高齢者の色彩感情について、全国的に実態調査を実施した。老年期の快適なライフ・スタイルと、被服色彩環境を明らかにするために、色彩の好悪、性別、生活形態、地域による特性、イメージ要因の解明につとめた。特に本報では、着装したい色彩の感情要因と性別、世帯別、住居形態との関連を考察することにより、高齢者の色彩嗜好の選定要因と、生活形態とのかかわりを検討する。第8報…数量化Ⅲ類、第9報…主成分分析、第10報…系統色名による解析を試みた。

方法 1) 対象 1740名(フェイス・シート第9報と同様) 2) 調査時期 1989年9月1~30日, 10~15時 3) 手続 質問紙法, 面接調査, JIS色票80色, 個体14, カテゴリー: [性別] ①…男, ②…女, [世帯別] ①…一人暮らし, ②…夫婦, ③…他と同居, [住居形態] ①…一戸建て, ②…集合住宅 4) 分析は数量化Ⅲ類。

結果 カテゴリーの配置から、Ⅰ・Ⅱ軸, Ⅰ・Ⅲ軸共に男は++, +-, 女は-+, --に位置し、住居形態では、Ⅰ・Ⅱ軸で++に男・一戸建て、+-に男・集合住宅、-+に女・集合住宅、--に女・一戸建てと分かれ、多少の片寄りがみられた。個体からは、Ⅰ・Ⅱ軸, Ⅰ・Ⅲ軸, Ⅱ・Ⅲ軸共に、若々しい, 個性的なが++, 洗練されたと似合った、上品な, 美しいと好きなが近くに位置した。これらから、老年期の色彩感情要因は、性差が強く、落ちつきとやすらぎを求める中に、若さへの回帰願望のあることが判明した。